

古文を声に出して読んでみよう

第一次・二次指導（一時間目）

一 よむ 三区画十人

- ① P 104 みなさんは……
- ② P 106 次の文章は……
- ③ P 107 次の文章は……
- ・大きく三つに分ける。それぞれ行が空いているところまで読む。

二 とく

○題目

「古文を声に出して読んでみよう」

・「古文」とは？ 日本の古い文章

・何語か？ 日本語

・古文が三つ出でてきた。何という文

章が出てきたか。（概観の扱い）

1 竹取物語

2 平家物語

3 おくのほそ道

（小さく横一線を引き、板書）

- ・何年前に書かれた文章か。
- ・今の日本語と違うのは何か。
- ・声にして読んだら、分かるか。
- ・今日は、「竹取物語」を勉強する。
- （「竹取物語」と板書）
- ・「物語」とは？ お話。
- ・誰が出てくるお話か。

竹取のおきなとかぐや姫。
竹取のおきなとかぐや姫。

五 よむ
・個読（順繰り読み）

六 とく

○語義

・あやし＝不思議。

・うつくし＝かわいらしい。

・ぬたり＝座っている。

※「ぬ」の字を扱う。

三 よむ

四 かく

（板書）

古文を声に出して

読んでみよう

○区分

（板書）

1 竹 千年
2 平 八百年
3 おく 三百年

竹取物語

平家物語

おくのほそ道

その竹の中に、もと光る

竹なむ一筋ありける。

あやしがりて、寄りて

見るに、つつの中光り

たり。それを見れば、

三寸ばかりなる人、

いとうつくしうてゐたり。

第二次指導（一時間目）

二 とく

○おさらい

・昨日、一番古い古文を読んだ。登場人物は？ 竹取と、かぐや。

・今日は、「平家物語」というお話。

誰の「物語」か。

・「平家」とは？ 平(たいら)一族のこと。

○承接

・「平家物語」の始まりのところ。平家の誰かが出て来るか？

○手引き

・平一族がどうなる話か、考えながらよく見て、ゆっくり書きましょう。

（板書）

竹取

かぐや

平家物語

ひとへに風の前のちりと同じ。

たけき者もつひにはぼろびぬ、

ただ春の夜の夢の」とし。

おばれれる人も久しからず、

たけき者もつひにはぼろびぬ、

ひとへに風の前のちりと同じ。

六 とく

○語義

- ・祇園精舎=祇園という名前のお寺
(インドでお釈迦様がいたお寺)

- ・諸行無常=諸(様々な) 行(行い)
無常(一定ではない)。

- ・娑羅双樹=御釈迦様が入滅の際、そこ
にあった二本の娑羅の木。問題は
「花の色」の方にある。

- ・盛者必衰=盛(盛ん) 衰(衰える)
「」とわり=真理=その通りだな。
おられる=得意になつてゐる。

- ・久しからず=久(長い間・永久)の
否定=長続きしない。

- ・たけき者=勇ましく強い
ひとへに=ただ=まるで・ちようど
ちり=小さなみ・ほ

区分

- ・二つに分ける。 漢語と和語。

- ・後ろから考ふる。同じような事を言
つてゐるのはどれか。

- ・おこれる人=たけき者
久しからず=つひにはほろびぬ

- ・ただ=ひとへに
・春の夜の夢と「風の前のちり」は
どうか?

- ・前を考ふる。二つに分ける。
・後ろと同じようなことを言つてい
るのはどうぢらか。 「盛者必衰」

○心

- ・「諸行無常」は、もつと広い範囲で
「全てのものは移り変わる」と言つ
てゐる。

- ・さて、「平家物語」というお話の一
始めに書かれている文章です。

- ・「平家(たいら一族)」がどうなつた
ところをお話が分かりますか。

- ・「盛衰」、「おられる人・久しからず」
「たけき者・ほろびぬ」

- ・これは、平家だけの話かな?

- ・指音読。

- ・時間があれば暗唱までいきたい。

- 第二 指導(三時間目)

七 よむ

- ・月日は百代の過客にして、
行き交う年もまた旅人なり。
舟の上に生涯をうかべ、
馬の口とらへて老いを迎ふる者は、
日々旅にして、
旅を栖とす。

- おさらい
・古文を二つ読んでみた。声に出して
読んでみたら分かったか。

- ・二つの物語の始めに、何が書いてあ
つたか。

- ・百代=長い時間・永遠。
・過客=通り過ぎていく客=旅人。

- ・生涯=一生。

- ・馬の口とらえて=馬を引いて。

- ・栖=住み家=ぐらす所。

○余韻

- ・松尾芭蕉は、みちのくに来たくて來
たくてたまらなかつたそうです。

- ・東松島市にも來てゐる。

○語義

- ・松尾芭蕉は、みちのくに來たくて來
たくてたまらなかつたそうです。

- ・後ろは、誰のことが。船頭・馬方。

○心

・「老いを迎える」とは?

- ・三年生で、松尾芭蕉の俳句を読ん
でいる。「閑かさや……。」

- ・前は、誰のことを言つてゐるか。
「月日」と「年」

- ・この文章を書いた人は、この文章の
中に出て来ているか。 いない。

- ・名前は? 松尾芭蕉。

- ・その人は出でないが、何に興味が
あるか分かる。ヒントは一番多く使
われている漢字一つ。「旅。」

- ・どのくらいの期間、旅をしたか。
五ヶ月間。

- ・旅をした場所は。ヒントは、地図。
東北地方(みちのく)。

- ・題名「おくのほそ道」とは、どうの
こことを言つたか。

○余韻

- ・みちのく=みちの奥。

○語義

- ・松尾芭蕉は、みちのくに來たくて來
たくてたまらなかつたそうです。

- ・東松島市にも來てゐる。

○余韻

- ・後ろは、誰のことが。船頭・馬方。

- ・時間があれば、暗唱。

○指音読。

- ・時間があれば、暗唱。

○承接

- ・「おくのほそ道」の書き出しのと
り。五ヶ月間の長い旅の出来事が書
いてある文章。途中を読んだことが